
御魂

遊月

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御魂

【Nコード】

N6959C

【作者名】

遊月

【あらすじ】

気が付いたとき見たのは、自分の亡骸。

第一話　く痛みく

気が付いた時には、野次馬だらけの道路に立っ
ていて、ふと辺りを見回したとき、最初に目に入っ
たのは――。

ただの肉塊^モになった自分の姿だった。

こんな状況になっ
たも妙に落ち着いてる自分がいることに自嘲の笑
みがこぼれる。

「さーで、どうしますかねえ……」

「何？交通事故？」

後ろを振り返ると、幼馴染みであつた――智香。

「ちよつと、智香……」

「やだ、優美！？嘘でしょ！？」

どうやら死者の声は生者には届く事はないらしい。

「すぐ近くに、いるんだけどな。」泣きながら、自分だったものに
縋る友を見ながら呟く。

どうして。

どうして、伝えることができない？なぜ、答えてくれない？

いくら考えたって、答えなんて出るはずもなく

痛くて、辛くて。もどかしかった。

彼女との思い出で一番古い記憶は、小学校3年生の頃。

複数の男子に無視をけしかけられ怯えていた智美を助けたことから

始まった仲だった。

私は虫やオバケ、怪談話など普通女子が苦手なものがまったく平気だった。

「あ、ありがとう……」「いーよ。にしても、あいつらうざったいなー。」

今度あったときは思いっきり殴ってやろう、と呟いた数秒後に笑い声が聞こえた。

「な、なんか変なこと言った?」「ううん、ちょっとおかしかっただけ。」

それからというもの、何かあるその度に彼女と行動をともにした。それから中学、高校、大学とずっと続いてきた仲のはずだった。なのに。

どうして、離れてしまったのか。
なぜ離れなければいけなかったのか。

私は、神様とかは信じていない。どうせ人間が創った偶像だと思っていたから。

信じていればよかったのだろうか。

信じていれば、いわゆる天国にいけたのか。

信じていれば彼女を、

彼女の泣き顔を見なくて済んだのだろうか――。

後悔だけが私の胸の中に渦巻いていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6959c/>

御魂

2010年10月9日20時40分発行